

## 考古学基礎講座

# 弥生時代の石器について

西田 和浩

### 【講座の概要】

#### 1. はじめに

石器は旧石器時代以来、生活に欠かせない必需品として利用されてきたが、弥生時代には消滅する。弥生時代は最後の石器時代ともいえる。水稻農耕とともに大陸の磨製石器がもたらされ、石器の種類は縄文時代よりも多様で、様々なものが作られた。

#### 2. 石器の種類と機能

弥生時代の石器は用途別に多様に分類される。その特徴は、①水稻耕作とともに大陸から伝来したものの（大陸系磨製石器）があること、②武器が出現したこと、③地域色が明確なこと、という点にある。

①は磨製石庖丁のほか、木製農具製作のため様々な用途の磨製石斧が出現した。②は石剣・大型の石鏃等に代表される。これらのうちで磨製のものは大陸から伝播したもの、あるいはその影響で製作されたものである。③は採取できる石材や農耕や金属器の普及の差などを反映したものと考えられる。

#### 3. 吉備の弥生石器の特徴

特定の石材に偏って石器作りがなされる点に特徴がある。吉備では、旧石器時代から打製石器の製作には香川産のサヌカイトが利用される。特に、打製石剣と打製石庖丁に利用された。この他、太型蛤刃石斧は「石英安山岩」といわれる特定の石材が利用される傾向がある。岡山市南方遺跡はこれまでの発掘調査から、吉備を代表する巨大弥生集落とみられる。ここでは、太型蛤刃石斧の製作失敗品や製作途中の半製品が多数出土した。近隣の遺跡ではあまりみられない現象であり、この南方遺跡で太型蛤刃石斧を集中して製作していたものと考えられる。

#### 4. おわりに ー石器研究の役割ー

石器は他の遺物のように、腐ったり錆びたりしないため、発掘すれば小さな物まで残される。そのことから、生活必需品である石器の種類を調べることで当時の人がどのような生業を中心に営んでいたのか推測するのに有効である。また、製作途中で廃棄される破片や失敗品などから、製作した場所や製作工程を分析することが可能である。また、石材の産地が判明しているものについては流通範囲から当時の地域間の交流について言及することができる。

石器の研究は弥生時代の社会を知るうえで欠かせない分野といえる。

#### 【参考文献】

- 平井 勝 1991 『弥生時代の石器』（考古学ライブラリー 64）ニュー・サイエンス社
- 高田浩司 2001 「吉備における弥生時代中期の石器の生産と流通」『古代吉備』第 23 集
- 寺前直人 2011 「三 石器の生産と流通」『講座日本の考古学 5 弥生時代（上）』青木書店

西暦	時代	できごと
前 400	縄文 早期	北部九州で水稻農耕はじまり、大陸系磨製石器が使用され始める。
前 300	弥生 前期	各地に水稻農耕が広まる。環濠集落が作られる。金属器（青銅器・鉄器）が北部九州に流入する。
前 200		青銅器の製作が始まり、各地に普及する。
前 100		倭、百余国に分かれる。（『漢書』地理誌）
前 1 後 1	弥生 中期	鉄器が普及し、石器が衰退する。
後 100		57 年。奴国王、後漢から金印を授かる。（『後漢書』東夷伝）
後 200		180 年。倭国乱れる。（『三国志』魏志倭人伝）
後 300	弥生 後期	239 年。卑弥呼が魏に使いを送る。（『三国志』魏志倭人伝）
後 300	古墳	

弥生時代年表

<b>狩猟具</b>	だせいせきぞく 打製石鏃	<b>調理具</b>	たたきいし 敲石
	ませいせきぞく 磨製石鏃		すりいし 磨石
<b>武器</b>	だせいせきけん 打製石剣		いしざら 石皿
	ませいせきけん 磨製石剣	<b>工具（伐採・加工具）</b>	
	だせいせつけん 打製石斧	ふとがたはまぐりばせきふ 太型蛤刃石斧	樹木の伐採用両刃石斧、縦斧
	ませいせつけん 磨製石斧	ちゅうじょうかたば 柱状片刃石斧	木製品の加工用片刃石斧、横斧
	かんじょうせきふ 環状石斧	へんぺいかたば 扁平片刃石斧	
	せきすい 石錘	のみじょうかたば 鑿状片刃石斧	
<b>漁労具</b>	だせいいしぼうちよう 打製石庖丁	いしきり 打製石錐	
<b>農具（收穫具）</b>	ませいいしぼうちよう 磨製石庖丁	磨製石錐	
		スクレイパー（刃器）	じんき
		敲石	
		砥石	

図1 岡山県内でみられる主な弥生石器の分類

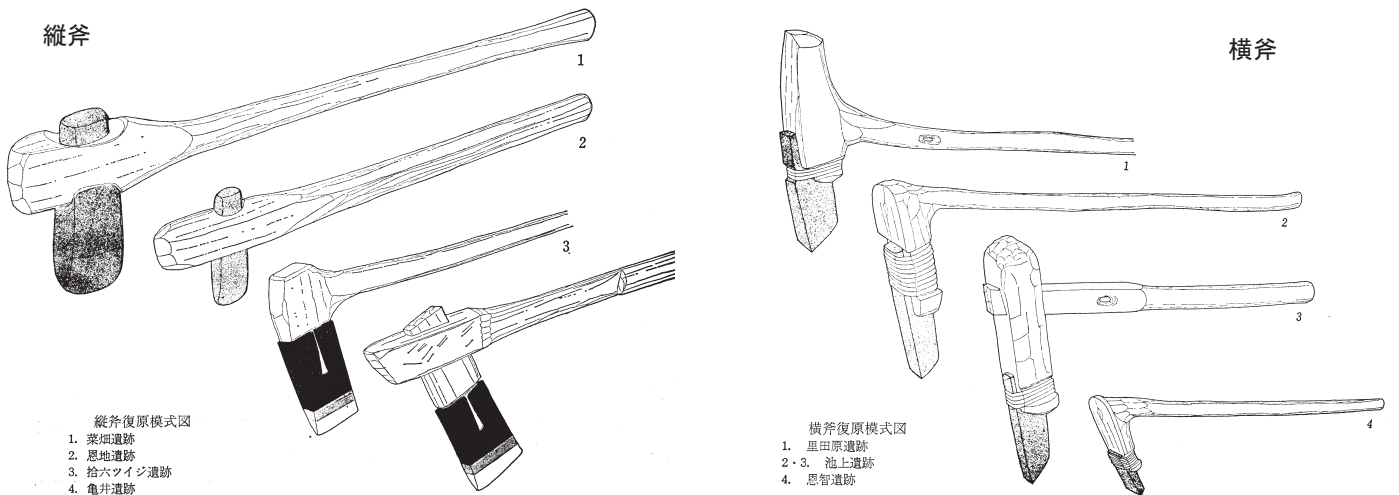


図2 石斧の着柄例

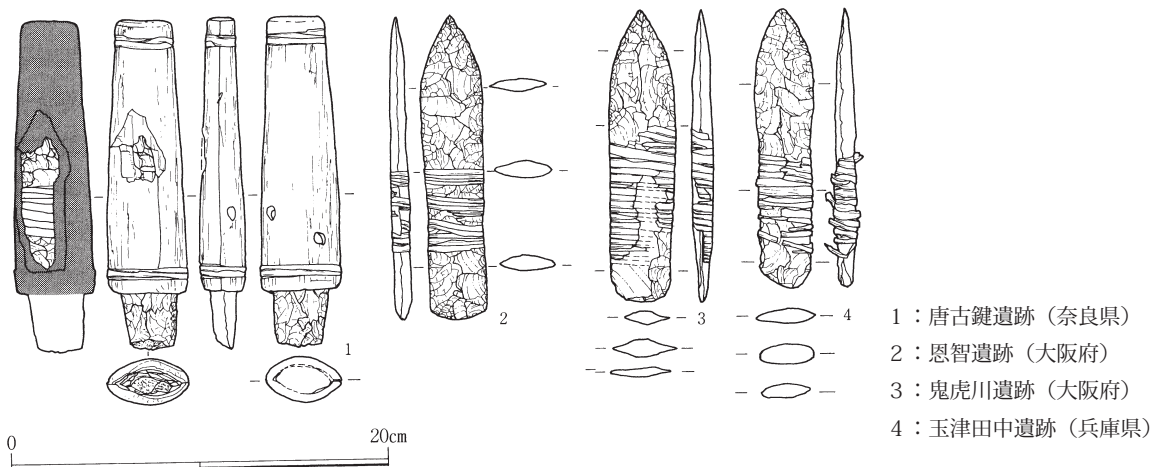
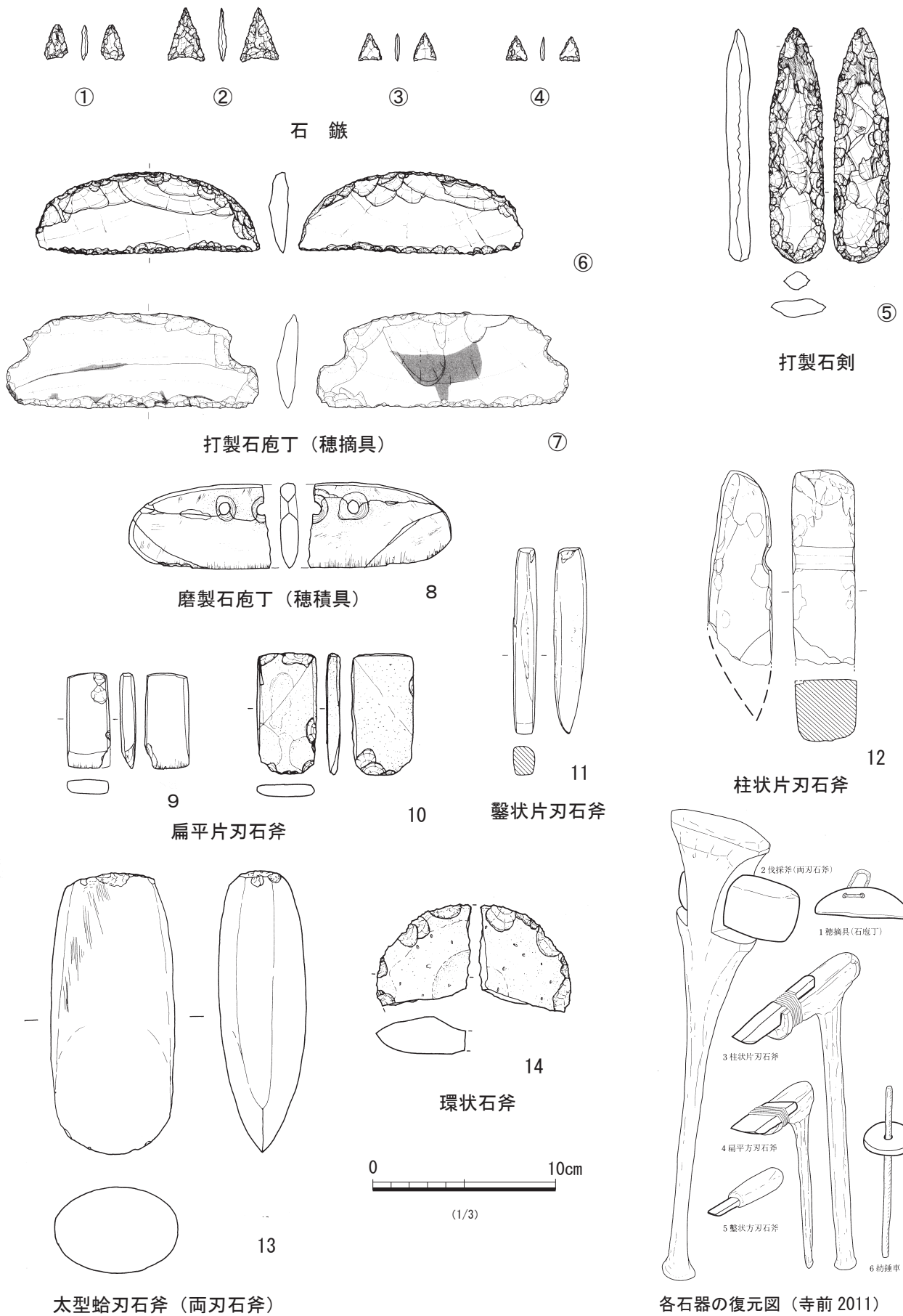


図3 鞘に入った打製石剣と柄を樹皮で巻いた打製石剣



①～④・⑥・⑧～⑩・⑬：南方（後楽館）遺跡 ⑤・⑭：赤田東遺跡 ⑦：上伊福（済生会）遺跡  
 ⑪・⑫：田益田中遺跡 \*①～⑦はサヌカイト製

図4 弥生石器の種類と形（岡山市内出土）

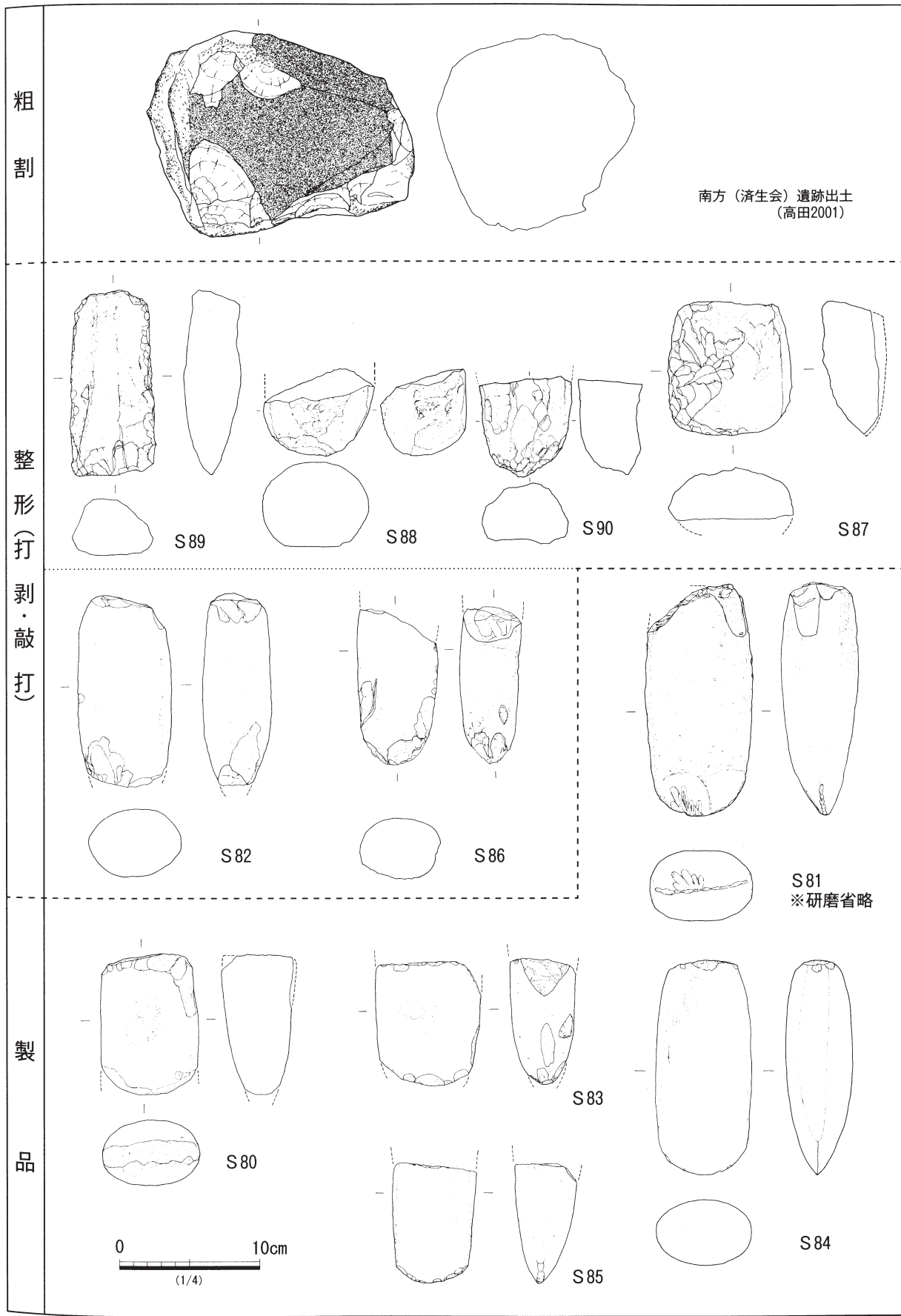


図5 南方(後楽館)の太型蛤刃石斧製作工程

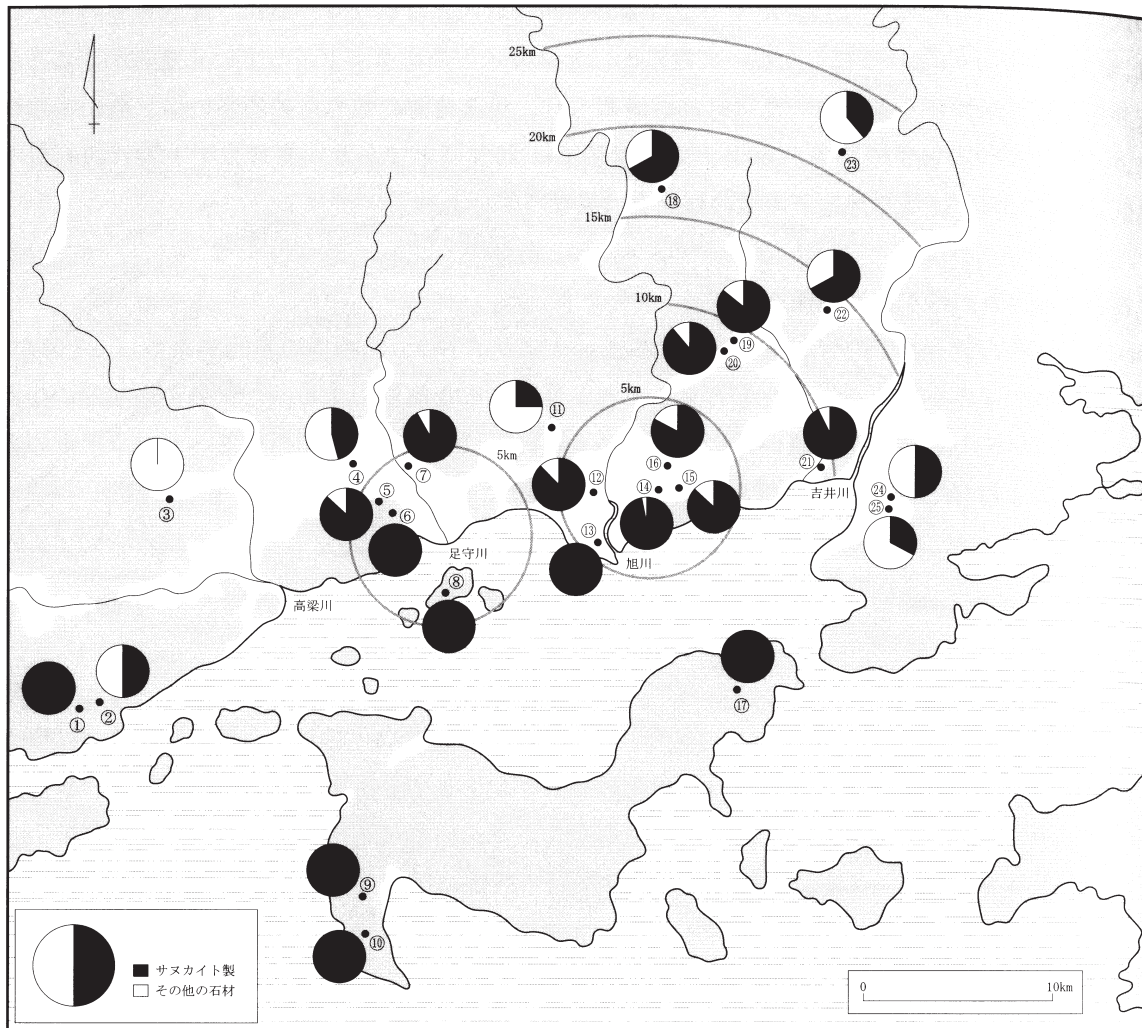


図6 各遺跡における弥生時代中期のサヌカイト製石庖丁の比率 (草原 2015)

図出典

- 図2 町田章 1985 「4 木器の生産」『弥生文化の研究 第5巻 道具と技術 I』雄山閣
- 図3 寺前直人 2010 『武器と弥生社会』大阪大学出版会
- 図4 寺前直人 2011 「三 石器の生産と流通」『講座日本の考古学 5 弥生時代(上)』青木書店  
岡山市教育委員会 2005 『赤田東遺跡』  
岡山市教育委員会 2012 『南方(後楽館)遺跡』  
岡山県教育委員会 1999 『田益田中(笹ヶ瀬川調整池)遺跡』  
岡山市教育委員会 2015 『上伊福(済生会)遺跡1』
- 図5 岡山市教育委員会 2012 『南方(後楽館)遺跡』
- 図6 草原孝典 2015 「石器組成からみた岡山平野の弥生集落 — 弥生時代前期、中期の集落遺跡の動向」『岡山市埋蔵文化財センター研究紀要』第7集 岡山市教育委員会

番号	遺跡名	サヌカイト製	上記以外
1	上竹西の坊	4	0
2	唐津北	1	1
3	大ノ奥	0	1
4	南溝手・窪木	12	14
5	前池内	7	1
6	矢部堀越	39	0
7	加茂政所	11	1
8	奥坂	5	0
9	城	7	0
10	菰池	13	0
11	田益田中(溝66・67)	6	2
12	南方(津島)	19	2
13	鹿田	3	0
14	百間川兼基	36	1
15	百間川今谷	14	2
16	赤田東	10	2
17	貝殻山	11	0
18	新庄尾上	4	2
19	用木山	156	25
20	惣図第1	73	9
21	高下	14	1
22	塩納成	4	2
23	才地	7	11
24	熊山田	2	2
25	畑中	1	2

数字は出土点数